は　じ　め　に

第45回北海道麦作共励会の開催にあたって、関係各位の皆様には絶大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年の第１回審査委員会（委員長：北海道農業研究センター　保田　浩　寒地野菜水田作研究領域長）を７月30日に開催し、開催要領、審査基準、推薦調書について検討を行い、本年の北海道麦作共励会の取り組みを決定いたしました。その後、審査委員会の決定を踏まえ、８月５日付けで各地区協会に開催案内を行い、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

令和６年の全道の小麦生産実績は、小麦全体の作付面積は131,800haと前年並、収穫量707,800トンで平年並（前年比99％）となり、収量が平年を上回る地域もある一方で、下回った地域もあるという結果となりました。

秋播小麦の全道収量は564kg／10aで前年比98％、品質は１等麦比率94％、品質ランク区分もほぼＡランクとなりました。春播小麦の全道収量は、374kg／10aで前年比110％、品質は１等麦比率88％、品質ランク区分もほぼＡランクとなりました。

麦作共励会へは、全道の関係者の協力で、個人の部　秋播小麦第２部（小麦面積20ha未満）１点、集団の部　秋播小麦１点の合計２点に出展がありました。

11月７日に第２回審査委員会を開催し、審査及び各賞の選考を行い、11月21、22日の現地調査により、正式に各賞を決定しました。

本報告書は、各部門の最優秀受賞者の麦づくりと経営概要をまとめたものです。作成に当たって、保田審査委員長に審査報告をお願いするとともに、関係地区のJA担当者、農業改良普及センターの皆さんに各受賞者の概要をまとめていただきました。

本報告書が全道の皆さんの麦づくりや経営改善の一助になることを願っております。

最後になりますが、本年の北海道麦作共励会の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様に対しまして、あらためて心からお礼申し上げます。

令和７年２月

一般社団法人　北海道農産協会

目　　次

1．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会実施要領 …… 1

2．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査基準 …… 3

3．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査委員名簿 …… 4

4．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査報告 …… 5

5．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会表彰者名簿 …… 7

6．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会
個人の部　秋播小麦　第２部　最優秀賞者の経営概要 …… 11

7．第45回（令和６年度）北海道麦作共励会
集団の部　秋播小麦　最優秀賞受賞者の経営概要 …… 18

第45回（令和６年度）北海道麦作共励会実施要領

１．趣　　旨

麦の生産改善を図るためには、麦作農家の良質麦生産意欲の高揚と生産技術及び品質向上、経営の改善を推進することが重要である。このため、北海道麦作共励会を開催し、生産技術あるいは経営改善の面から創意、工夫を持ち先進的で他の範となる麦作農家及び麦作集団を表彰し、その業績を広く紹介するものとする。

２．主催団体

主　　催　一般社団法人　北海道農産協会

後　　援　北海道、北海道農業協同組合中央会
　　ホクレン農業協同組合連合会、北海道製粉連絡協議会、北海道農産物集荷協同組合

３．対象地域

一般社団法人北海道農産協会会員の地区協会９地区を対象とする。

４．部　　門

共励会は個人および集団別に以下の部門毎に行う。

⑴　個人の部　①秋播小麦　第１部（20ha以上）
　　②秋播小麦　第２部（２ha～20ha未満）
　　③春播小麦

⑵　集団の部　①秋播小麦
　　②春播小麦

５．参加資格

⑴　個　　人

次の要件を満たす農家であること。

１）当該年産を含む、３カ年の平均作付面積がおおむね２ha以上であること。
　ただし、秋播小麦〔第１部〕にあっては、当該年産を含む、３カ年の平均作付面積が概ね20ha以上であること。

２）当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。

３）省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。

４）作付品種が北海道の優良品種であること。

⑵　集　　団

次の要件を満たす集団であること。

１）生計を異にするおおむね５戸以上で、栽培技術の取り組みが一致性を有し、圃場管理技術の実施等においても、省力化や品質向上面で共同して効率化を図っている集団であること。該当する農業法人も含むものとする。

２）当該年産を含む、３カ年の平均作付面積がおおむね20ha以上であること。
　ただし、春播小麦についてはおおむね10ha以上とする。

３）当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。

４）省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。
５）作付品種が北海道の優良品種であること。

6．参加手続と全国麦作共励会への推薦等

⑴　北海道共励会への参加推薦者は、生産地のJA組合長を基本とする。
⑵　北海道共励会への参加推薦調書は、原則として、市町村米麦改良協会もしくはJA等が地区米麦改良協会を通じて一般社団法人北海道農産協会へ提出する（推薦調書様式は別に定める）。
⑶　北海道共励会において各賞選考のうえ、各部１位の中から個人・集団１点を、参加資格基準に基づき全国麦作共励会へ推薦する。

＊全国麦作共励会参加基準

（個　人）

当該年産麦の作付面積が、２ha以上であること。

（集　団）

当該年産麦の作付面積が、10ha以上であること。

⑷　北海道共励会において、原則として過去３カ年以内に最優秀賞を授与されたことがない個人・集団を参加対象とする。
⑸　推薦調書にある個人情報の取扱いについては、当該生産者（集団にあっては集団の長）の承諾を得て取り進める（承諾書様式は別に定める）。

7．審　　査

審査は、別に定める審査基準により行うものとする。

なお、品質評価として、蛋白、灰分、容積重、FNの４項目の分析を行う。

8．審査委員会

この共励会に審査委員会を設け審査にあたる。

審査委員は、関係機関・団体の長が推薦する適職に、主催団体である一般社団法人北海道農産協会が就任を依頼し、本人の了解を得て承認する。

審査委員長は、審査委員会で互選することを基本とする。

9．表　　彰

⑴　審査の結果、その成績が優良と認めたものを表彰する。
⑵　表彰区分は、審査の内容を踏まえて審査委員会が定める。

ただし、最優秀賞を授与する場合は各部門毎（個人・集団毎）に１点のみとする。

⑶　受賞者には、賞状ならびに記念品を贈呈する。
⑷　委員長が必要と認めたときは、北海道知事の表彰下付を申請するものとする。

10．そ　の　他

⑴　個人情報については、一般社団法人北海道農産協会が定める「個人情報保護基本方針」に基づき取り扱う。
⑵　この要領に定めていない事項については、必要の都度委員長が別に定める。

第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査基準

1． 北海道麦作共励会の審査は、この基準に定めるところによる。

2． 審査は、推薦調書を主体として厳正に行うものとする。
　特に優秀なものについては、その成績を収めた経営と技術要因につき、審査委員の代表により現地審査を行うものとする。

3． 審査対象は個人および集団別に下記の区分毎とする。

⑴　個人の部　①　秋播小麦〔第１部〕（20ha以上）
　　②　秋播小麦〔第２部〕（２ha～20ha未満）
　　③　春播小麦

⑵　集団の部　①　秋播小麦
　　②　春播小麦

4． 審査項目毎の配点は次のとおりとする。

⑴　収量要素（10a当たり収量）の配点　30点
　〔内　訳〕
　１）令和６年産　全道10a当たり平均収量対比配点（秋・春別）　（５点）
　２）市町村10a当たり５カ年平均収量との対比
　　過去（平成29年～令和５年産）７年中豊凶年を除く５ヵ年平均収量対比配点　（15点）
　　（秋、春各々の平均収量対比）
　３）市町村10a当たり２カ年平均収量との対比
　　過去（令和４年・令和５年産）２ヵ年平均収量対比配点　（10点）
　　（秋、春各々の平均収量対比）
　　なお、集団が市町村全体の大きい規模の場合、比較は隣接する市町村の平均収量する。

⑵　品質要素の配点　30点
　１）検査等級　（15点）
　　秋播小麦：当年を含む過去３年の上位等級（１等＋２等）数量に対する１等比率
　　春播小麦：当年を含む過去３年の総収量に対する１等＋２等（上位等級）比率
　　なお、当年産に重みをつけた配点とする（具体的数字は配点基準内規による）。
　２）品質評価　（15点）

⑶　技術要素の配点　20点
　〔内　訳〕
　　輪作体系、排水対策、有機物施用、土改資材と融雪材の施用、施肥法、播種法、
　　雑草対策、病害虫防除（雪腐病防除を含む）、農業機械利用、収穫・乾燥・調製
　　（10項目×２点）

⑷　技術の特色・経営の特色・その他特記事項要素の配点　20点
　〔内　訳〕
　　技術上の工夫、品質改善の努力、規模拡大・省力低コストの努力、
　　経営上の特色、地域での役割と波及効果　（５項目×４点）

⑸　委員会の裁量点　10点

⑹　合　計　110点

5． 順位・表彰区分は、各項目の合計点によるものとし、審査委員会において決定する。

6． その他必要な事項については、審査委員会においてその都度決定する。

第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査委員会名簿

（令和６年８月現在）

	所属名	役職名	氏名
委員長	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター	寒地野菜水田作研究領域 領域長	保田　浩
委員	北海道農政部生産振興局技術普及課（北見農試駐在）	上席普及指導員	中村　浩
委員	北海道農政部生産振興局技術普及課	主査（普及指導）	木村　篤
委員	北海道農政部生産振興局技術普及課（十勝農試駐在）	主任普及指導員	石村博之
委員	北海道農政部生産振興局技術普及課（農研本部駐在）	主査（普及指導）	千葉　健太郎
委員	北海道製粉連絡協議会	事務局長	五十嵐　裕
委員	北海道農産物集荷協同組合	業務部兼検査部課長	石井　学
委員	北海道農業協同組合中央会	米穀農産課課長	沖崎　愼
委員	ホクレン農業協同組合連合会	麦類課課長	吉原孝昭

第45回（令和６年度）北海道麦作共励会審査報告

第45回（令和６度）の北海道麦作共励会の出展者の麦づくりおよび審査結果の概要について、審査員を代表して報告申し上げます。

令和６年産の全道の小麦生産面積は131,800haと前年並、収穫量は707,800トンで前年比99％の平年並となり、収量が平年を上回る地域もある一方で、下回った地域もあるという結果となりました。

また、秋まき小麦の全道平均収量は564kg／10aで前年比98％、品質は１等麦比率94％、品質ランク区分もほぼＡランクとなりました。春まき小麦の全道平均収量は、374kg／10aで前年比110％、品質は１等麦比率88％、品質ランク区分もほぼＡランクとなりました。

次に、北海道麦作共励会の経過について申し上げます。第１回審査委員会を昨年７月30日に開催、各関係機関・団体に後援依頼するともに、全道各地に麦作共励会への参加推薦調書の提出推進活動を行いました。

その結果、「個人の部　秋播小麦第２部」１点、「集団の部　秋播小麦」１点の合計２点について出展いただきました。

そこで、11月７日に第２回審査委員会を開催、審査及び各賞の選考を行い、11月21、22日の現地調査により、正式に各賞を決定させて頂きました。以下、各賞受賞者と受賞者の麦づくりの概要について紹介させて頂きます。

【個人の部　秋播小麦第２部　最優秀賞】　真狩村　向井　翔一氏

向井氏は、秋播小麦（きたほなみ）4.5ha、馬鈴薯12.0ha、てんさい5.1ha、小豆2.8ha、野菜11.8ha、その他、大根、長いも、人参、ごぼう、かぼちゃと多品目を栽培し、これらを組み合わせた４～６年の輪作体系を基本としています。

圃場の排水対策では、排水の劣るほ場に暗渠を整備するとともに、各作物栽培前にはサブソイラを施工しているということです。

土作りについては、小麦収穫後に反あたり牛ふん堆肥３t、小麦、小豆以外の作物栽培前には乾燥豚ぷん堆肥200kgを施用し、麦稈は全量ほ場にすき込み、腐熟促進のために石灰窒素を20kg添加するなど、有機物を積極的に圃場に施用しています。

小麦の播種量については６kg／10a程度におさえ、土壌分析データなどによる基肥の加減と越冬後の追肥管理で穂数を適正な範囲内にコントロールすることで、粒の充実を図っています。追肥は起生期、幼穂形成期、止葉期に小麦の生育状況を確認しながら実施しているということです。

次に病害虫防除について、防除を最優先の作業として、特に予防に主眼を置き、定期的なほ場巡回、農協や近隣の情報をもとに適期かつ効率的な防除を心がけているということです。

収穫は地域のコンバイン組合に委託し、コンバイン組合での刈り取り巡回、JAの刈り取り判定等により、適正な子実水分（30％以下）で収穫されています。

令和６年産の小麦収量はこれまで紹介してきた作業体系により反あたり805kgという驚異的な実績で、真狩村平均を38％上回る多収となりました。過去２か年の平均収量でも反あたり677kgは、真狩村平均の145％であり、出荷数量に対する一等麦割合も100％という素晴らしい実績を残されていることなどから、「個人の部、最優秀賞」に選ばせていただきました。

小麦生産にあたっては、適正輪作の実現のため、定期的な堆肥施用、土壌診断結果に基づく土壌改良の実施、ほ場毎の生育状況を把握したうえでの施肥及び追肥を行うとともにGNSSガイダンスシステムを導入して高精度かつ高能率の作業を進めるなど、圃場をよく観察しながら、最新技術も取り入れた栽培方法について、高く評価させていただきました。。

向井氏は地域を支える若手農業者のリーダー的存在であり、地域農業の振興に尽力されているとも聞いていますので、その点も評価させていただいているところです

【団体の部　秋播小麦　最優秀賞】　津別町　株式会社たつみ

代表取締役　有岡　淳一氏

株式会社　たつみは、平成16年に設立され、現在、構成員４戸、経営面積は66ha、構成員の平均年齢は40歳と若いながら、各作物に対する学習意欲は高く、関係機関と連携しながら熱心に栽培に取り組んでいます。

作目は、秋播小麦15ha、春播小麦3.3ha、大豆5.1ha、てんさい11.6ha、種子馬鈴薯7.2ha、たまねぎ20.6ha、その他3.1haで、４年輪作を行っています。種子馬鈴薯導入前は、「てんさい－たまねぎ・ばれいしょ－小麦」の３年輪作であったが、種子馬鈴薯に新たに取り組むことで４年輪作を実現しています。

小麦栽培では、適正な茎数確保を目的に適量播種を心がけており、ほ場の地力や他作物の生育状況を勘案し、ほ場ごとに播種量を７～10kg／10aの範囲で調節しています。

土壌改良や肥培管理は土壌診断結果に基づき行っており、さらに低コスト化のため、JAと連携した肥料銘柄の試験を積極的に行っているということです。

また、追肥作業の省力化のため肥効調節型肥料を一部圃場で導入していること、茎数・葉色等生育状況に応じた肥培管理や越冬後の凍上対策としてローラーによる鎮圧を実施し、分げつ促進や倒伏防止に努めていること、除草管理は秋処理を基本とし、春は雑草の発生状況を確認しながら圃場ごと使用の有無を判断していること、病害虫防除は圃場観察を重点的に行い、病害虫のまん延により収量、品質が低下しないよう心掛けているということです。

令和６年産の秋播小麦（きたほなみ）単収は648kgで、道平均547kgを上回る水準（道平均比118％）となっています。株式会社たつみは、津別町において過去６年間にわたりトップクラスの収量、品質を確保しているということ、実需者との交流会にも積極的に協力し、実需から求められる良質小麦を目指し、肥培管理や病害虫防除など、毎年の小麦の生育、天候に合わせた対応により、特に高い安定生産の技術をお持ちであるということを高く評価させていただき、「団体の部、最優秀賞」とさせていただきました。また、津別町の小麦生産組合の優良小麦生産事例講習会の講師となるなど、津別町全体の生産性向上の一躍を担っていることも高く評価させていただいているところです。

今回、受賞された皆さんは、地域の仲間と連携しながら、地域農業を力強く牽引していく存在となっています。これまでのご努力に敬意を表するとともに、この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

最後に本年度の麦作共励会に関係された皆さんにお礼申し上げるとともに、今後も北海道の麦作振興に尽力されることを祈念し、審査報告とさせていただきます。

【審査委員長】
国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター
寒地野菜水田作研究領域長　保田　　浩

第45回（令和６年度）北海道麦作共励会表彰者名簿

※敬称略

【個人の部　秋播小麦　〔第１部〕】

【出展なし】

【個人の部　秋播小麦　〔第２部〕】

表　彰　名	氏　　名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最　優　秀　賞	向井　翔一・恵里	真狩村	ようてい

【個人の部　春播小麦】

【出展なし】

【集団の部　秋播小麦】

表　彰　名	集　　団　　名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最　優　秀　賞	株式会社　たつみ	津別町	津別町

【集団の部　春播小麦】

【出展なし】

＜全国麦作共励会への推薦・審査結果＞

部　　門	氏名・集団名	全国麦作共励会審査結果
農　家　の　部	向井　翔一・恵里	全国米麦改良協会会長賞
集　団　の　部	株式会社　たつみ	全国農業協同組合中央会会長賞